

三菱電機 2023年度 中間報告書
2023年4月1日から2023年9月30日まで

株主通信2023

目次

- P.1 社長メッセージ
- P.3 特集 当社ウェブサイトご紹介
- P.5 部門別概況



株主の皆さまには、平素から格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、2023年度上半期の概況と今後の取組みについてまとめました「株主通信2023」をお届けいたしますので、ご高覧ください。

2023年12月

Changes for the Better

執行役社長

漆 間 啓

President & CEO Kei Uruma

2023年度業績見通しと 2025年度に向けた中期経営計画

2023年度の業績見通しは、売上高5兆2,000億円、営業利益3,300億円としています。各国での金融引き締めや地政学リスクの高まり等、不透明感が続く環境下ですが、空調・家電を中心とした量産系事業での着実な需要の刈り取りや、各事業での価格転嫁の効果等により、売上高・営業利益いずれも過去最高を見込んでいます。

このような状況の下、2021年度に発表した2025年度中期経営計画の財務目標のうち、売上高目標については「5兆円+(プラス)」として継続的に5兆円以上の売上高を目指すべく目標を更新いたしました。2023年度は中期経営計画の中間年度にあたりますが、今後は財務目標のうち、営業利益率10%とROE10%の目標達成に向け、事業ポートフォリオ戦略と経営体質改善に注力していきます。事業ポートフォリオ戦略では、成長性と収益性・資産効率の観点により重点成長事業と位置づけた事業への積極的投資を行います。他社との連携やM&Aによるミッシングパーツの補完等を通して事業の競争力強化に向けた施策も進めていきます。キャピタル・アロケーションでは、成長投資を最優先とし、利益成長を通じた株主還元強化を図っていきます。2021年度に約500億円の自己株式の取得を行いました。2023年度においても取得期間を2024年3月までとする500億円を上限とした自己株式の取得を実施しています。

ビジネスエリア (BA) 経営体制の進化 「循環型 デジタル・エンジニアリング企業」への変革

幅広い事業領域を俯瞰し、中長期視点で企業価値の最大化に取り組むため、三菱電機グループは2022年度から9つの事業本部・事業推進本部を4つのBAに集約した、BA経営体制を導入しています。BAオーナーは、投資家の視点でBA内を俯瞰した資源の再配分による資産効率の最大化、ポートフォリオ戦略の立案・実行、事業本部の壁を越えたシナジーの発揮、また、BA内、BA間の技術・シナジーの創出、BAを跨る人財・技術のダイナミックな連携、ソリューション事業の提供等を推進していきます。半導体・デバイス事業本部は社長直轄の事業本部とし、各事業のキーとなる半導体デバイスの供給を通じ、グループ全体としての競争力を強化していきたいと考えています。今後、大きな成長が期待されるパワーデバイス事業の戦略的投資も全社的な視点で判断し、成長を牽引していきたいと考えています。

また、三菱電機グループは長期視点の下、グループ内外の

知見の融合と共創により、新たな価値を提供する「循環型 デジタル・エンジニアリング企業」への変革に向けた取組みを進めています。お客様から得られたデータをデジタル空間に集約し、分析するとともに、グループ内が強くつながり、知恵を出し合うことでコンポーネント、システム、統合ソリューションを進化させ、新たな価値を生み出し、その価値をさらに幅広いお客様に還元する「循環型 デジタル・エンジニアリング企業」へと変革し、多様化する社会課題の解決に貢献してまいります。

価値創造プロセスを支える6つの資本

三菱電機グループは、経営方針においてサステナビリティの実現を経営の根幹に位置づけています。

サステナビリティの実現に向けては、価値創出を目指して自社の資本をどのように活用していくかを明確にすることも不可欠です。

まず、最も重視しているのは人的資本です。企業が成長していく上で核となる「人」への投資を拡大、強化します。特に個人のキャリアオーナーシップを尊重し、自ら考え、主体的に行動し、挑戦し続ける「多様・多才な人財」を大切にしていきます。加えて人的資本の価値最大化のために、人財戦略と事業戦略の統合を進めていきます。

2つめは財務資本です。成長原資となる株主資本、営業キャッシュ・フロー、キャピタル・アロケーション等が重要な要素となります。2023年3月期の親会社株主に帰属する持分は3兆2,390億円、親会社株主帰属持分比率は58.0%となりました。今後はこの強い財務体質・健全性を礎として、株主・投資家の皆さまの期待に応えられるよう、成長事業への投資も積極的に進めていきます。

3つめは製造資本、4つめは知的資本です。技術に裏付けされた製品やシステムの製造・販売に携わるメーカーにとって、これらは重要な資本です。特に三菱電機グループは、国連の専門機関である世界知的財産機関 (WIPO) が2023年2月に発表した2022年の企業別国際特許出願件数において、2014年から9年連続で世界トップ5位以内、日本企業で8年連続となる第1位を獲得しました。これは、私たちが事業のグローバル化とともに国際特許出願を積極的に推進している成果です。

5つめは自然資本です。世界が気候変動に伴う様々な状況に直面する中、各国・各企業そして個人に持続可能な地球環境を意識した活動が求められています。植物、動物、空気、水、土、鉱物をはじめとする多くの自然資源の恵みである天然資源は

すべての産業や事業の基礎部分を成すものであり、次世代の方々も活用する共通資本と認識しています。

最後の6つめは社会関係資本です。創立以来、三菱電機グループが世界の多くの地域で事業を推進できるのは、各々の地域社会から理解・協力をいただいているからです。三菱電機グループはその地域社会において様々な社会貢献活動を展開しています。引き続き地域社会やお客様との信頼関係、人的関係を継続して重視していきます。また、国内外の大学研究機関や各地域のパートナー企業とも連携を深め、笑顔あふれる持続可能な社会づくりに貢献していきます。

三菱電機グループのパーパスと 従業員一人ひとりのマイパーパス

私たちは企業理念として、「私たち三菱電機グループは、たゆまぬ技術革新と限りない創造力により、活力とゆとりある社会の実現に貢献します。」を掲げ、企業活動を行っています。これは三菱電機グループの存在意義、会社のパーパスであり、常に追求し続ける究極の目標です。

企業理念、会社のパーパスが組織としての志であるのに対し、

2023年度上半期の振り返り

2023年度上半期(4月~9月)の景気は、米国では金融引き締めなどの影響を受けつつも個人消費を中心に回復が継続し、日本では堅調な個人消費に加えインバウンドの増加もあり、緩やかな回復が継続しました。中国では輸出の停滞に加え、不動産不況等を背景に内需も減速し、持ち直しの動きがみられました。欧州では金融引き締めなどの影響により、企業・家計部門ともに減速しました。

この結果、三菱電機グループの2023年度第2四半期累計期間の業績は、以下のとおりとなりました。

■ 売上高

売上高は、為替円安の影響や価格転嫁の効果などにより、前年同期比1,989億円増加の2兆5,384億円となりました。ライフ部門では、ビルシステム事業は中国を除くアジア・国内・欧州向けで増加し、空調・家電事業は空調機器の需要が堅調に推移し増加しました。インダストリー・モビリティ部門では、FAシステム事業はデジタル関連分野の需要減速などにより減少しましたが、自動車機器事業は電動化関連製品や自動車用電装品などが増加しました。インフラ部門では、社会システム事業は国内外の交通事業や公共事業で増加し、電力システム事業は国内外の電力流通事業や海外の発電事業で増加しましたが、防衛・宇宙システム事業は防衛システム事業が減少しま

それを着実に実行していくために欠かせないのが、従業員一人ひとりの志、「マイパーパス」です。現在、グループ全体で企業理念を自分事化していくためのマイパーパス活動を進めています。

私自身は、「三菱電機グループを活力ある会社にする。そのために“情熱・熱意・執着心”を持ち続ける」をマイパーパスとして掲げました。「これを達成したい」という“情熱”をスタート地点に、“熱意”を推進力として取り組み、途中で壁にぶつかっても、“執着心”をもって貫き通すこと。社長就任よりはるか以前から、何か困難に挑むとき、私は常にこれを抛り所にしてきており、他に代えられないものです。

変化を起こすためには、自分を主体として動くことが必要であり、その意味で各自がマイパーパスを明確にする意義は大きいと考えています。

マイパーパス活動を通して、従業員が日々の業務の中で三菱電機グループが目指すものを実感・実現できるよう、この活動を進めていきたいと考えています。

3つの改革の進捗等について

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/reform/>



した。セミコンダクター・デバイス部門は、パワー半導体の堅調な需要により増加し、ビジネス・プラットフォーム部門では、システムインテグレーション事業・ITインフラサービス事業が増加しました。

■ 営業利益

営業利益は、ライフ部門、インフラ部門、インダストリー・モビリティ部門、セミコンダクター・デバイス部門での増益により、前年同期比553億円増加の1,358億円となりました。営業利益率は、売上原価率の改善などにより、前年同期比2.0ポイント改善の5.4%となりました。

売上原価率は、為替円安の影響に加え、価格転嫁の効果などにより、前年同期比2.1ポイント改善しました。販売費及び一般管理費は、前年同期比490億円増加しましたが、売上高比率は前年同期並みとなりました。その他の損益は、前年同期比39億円減少し、売上高比率は前年同期比0.1ポイント悪化しました。

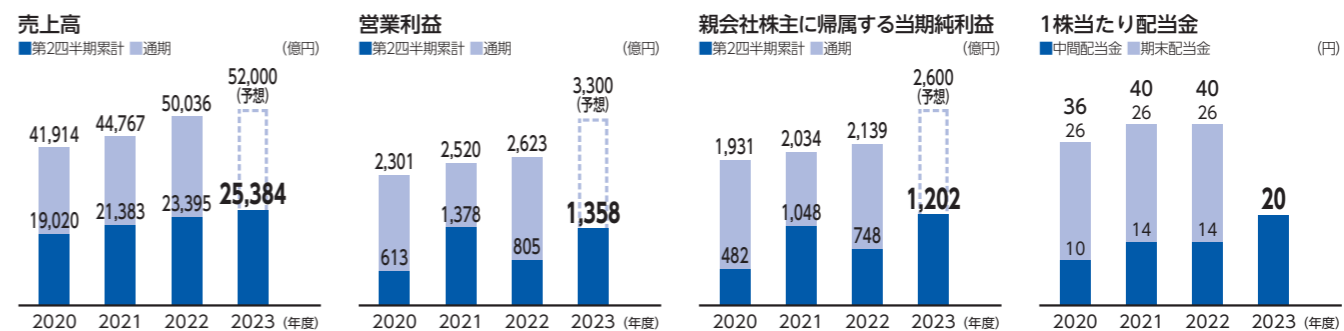
■ 税引前四半期純利益

税引前四半期純利益は、営業利益の増加などにより、前年同期比566億円増加の1,597億円、売上高比率は6.3%となりました。

■ 親会社株主に帰属する四半期純利益

親会社株主に帰属する四半期純利益は、税引前四半期純利益の増加などにより、前年同期比454億円増加の1,202億円、売上高比率は4.7%となりました。

第2四半期累計期間決算ハイライト



*1 各予想値は、2023年10月31日に公表したものです。 *2 2023年度の期末配当金は未定です。

当社ウェブサイトご紹介

三菱電機グループの人と取組みを発信するウェブサイトをご紹介します。ご紹介している三菱電機グループの様々な企業活動をご覧いただき、ご理解を深めていただければと思います。

三菱電機グループ約15万人のパーパスプロジェクト開始



特設サイト:「コツコツ ワクワク 世界をよくする」

当社は、新たな取組みとして国内外グループ会社の従業員約15万人*を対象としたパーパスプロジェクトを立ち上げました。

当社グループのパーパスは、企業理念として掲げる「私たち三菱電機グループは、たゆまぬ技術革新と限りない創造力により、活力とゆとりある社会の実現に貢献します。」です。

本プロジェクトは、従業員が自分自身のパーパス「マイパーパス」について考え、企業理念／パーパスとの重なりや結びつきを見だし、働く仲間と共有しながら社内コミュニケーションを活性化する取組みです。この活動を通じて、現在、当社で進めている組織風土改革をより一層加速させます。

従業員一人ひとりが、企業理念／パーパスと向き合い変革の原動力とすることで、「活力とゆとりある社会の実現」に力強く貢献する新しい三菱電機グループの創生を目指していきます。

* 2023年3月31日時点 連結対象期末人員

詳細はこちら

特設サイト:「コツコツ ワクワク 世界をよくする」
<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate-communication/>



たゆまぬ技術革新と限りない創造力を積み重ねていく
 私たちの姿勢を表現

コツコツ ワクワク

世界をよくする

活力とゆとりある社会の実現に向けた私たちの思い



Our Stories 三菱電機グループの「ひと」と「こと」を知るメディア

2023年10月に、当社ウェブサイト新たに「Our Stories」三菱電機グループの「ひと」と「こと」を知るメディアをオープンいたしました。

企業理念である、活力とゆとりある社会の実現に挑む、三菱電機グループの従業員(=ひと)と、企業としての活動(=こと)。この2つを通して、当社の存在意義や果たすべき役割、そしてこれを追求する姿を、皆さまにお届けします。「ひと」から知る従業員の想いや活動をご紹介する「Voices」、「こと」から知る三菱電機グループの考えや取組みをご紹介する「Journals」の2つのカテゴリより記事をご覧いただけます。

詳細はこちら「Our Stories」

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/our-stories/>



三菱電機 デザインの仕事(インタビュー記事)

デザイナーとユーザーの間で、「使いやすさ」と「心地よさ」を磨く

使う人を守る。その積み重ねを30年以上

統合デザイン研究所にはデザイナーだけでなく、様々なスキルを持ったメンバーが働いています。私たち「UX(ユーザーエクスペリエンス)リサーチャー」の仕事は、ユーザー体験に関わる調査を行うこと。その業務の根幹となるのが、製品の使い勝手や操作性を客観的に評価するユーザビリティ評価です。

ユーザーの行動が、より良いデザインを教えてくれる

ユーザーテストでは、開発中に気づけなかった問題点がしばしば明るみに出ます。いつもユーザーに正解を教えただきながら、知識と経験を蓄えています。

アップデートは常に求められます。それが顕著な分野が、スマートフォンアプリのUIです。「以前はこうだったから」と考えてしまうと、かえってユーザビリティを損ねることになりかねません。今主流になっているUIや、ユーザーの感覚もふまえ、柔軟に評価するよう心がけています。

どんなに技術が進んでも、立ち返るべきは「人」

ユーザーエクスペリエンスの評価では使いやすさにプラスして、「楽しい」「不安に感じない」といった人の気持ちの評価も手掛けています。ユーザーが操作する・しないに関わらず、利用シーンにいる「人」を思う。それがUXリサーチャーの基本姿勢です。

人とモノがある限り、ユーザビリティの探求は続く

三菱電機のユーザビリティやユーザーエクスペリエンスへの取組みは、国内外で高く評価されています。時代の流れの中、人もモノもどんどん変わっていきますので、その関係性は都度見直さなければなりません。製品やシステム、サービスに人が関わる限り、今後もずっとこの仕事は求められ続けるでしょう。そのために私たちも進化を続けていきます。



詳細はこちら「三菱電機 デザインの仕事」
<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/design/21/>



兵庫県 神戸製作所 編

神戸製作所は1921年(大正10年)に操業を開始。三菱電機発祥の地であり、歴史ある工場です。

電力・水道・下水道・交通・官公庁等をはじめとする様々な社会基盤を支える数多くの製品やプラントシステム展開を、高い技術力によって提供しています。システム構築からサービスに至るまで、様々なニーズに合わせたソリューションの提供をしています。

電力や上下水道、鉄道やビルなどの商業施設まで、様々な社会インフラを高い技術で監視、制御する事でより安全で快適な生活環境の実現を目指していきます。

詳細はこちら「プロジェクトME」

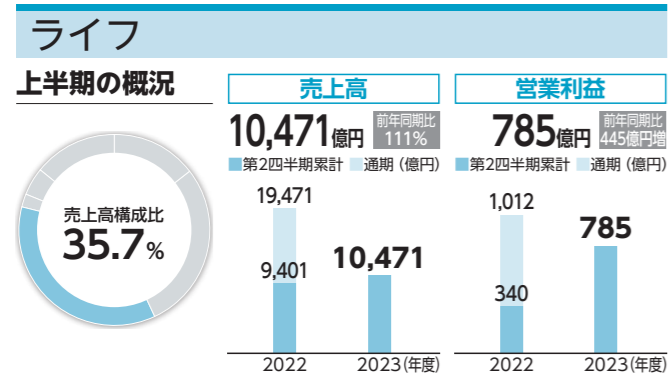
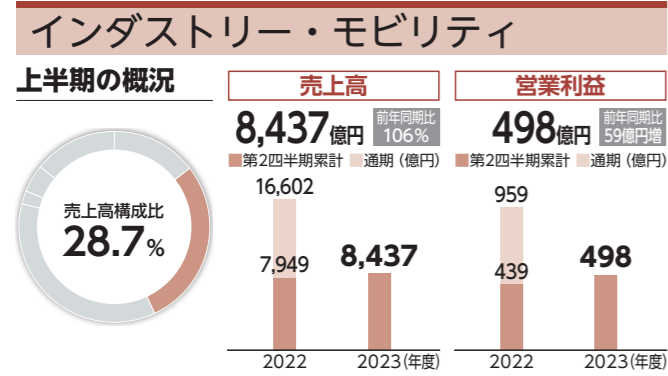
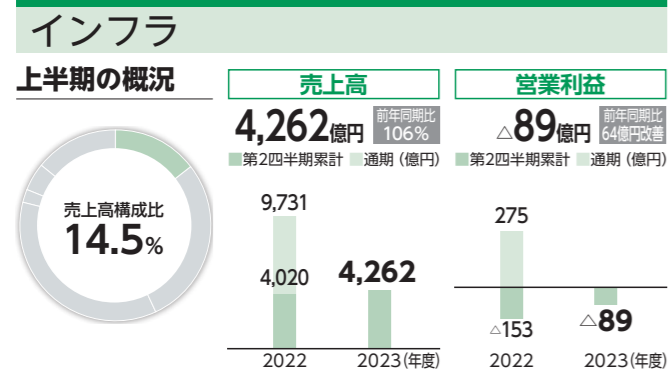
<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/factory-projectme/kobe/report.html>



終わりに

「Our Stories」三菱電機グループの「ひと」と「こと」を知るメディアでは、今回ご紹介した内容以外にも様々な当社の「ひと」と「こと」から知るコンテンツについて掲載しております。当社ウェブサイトを通じて、当社従業員の想いや活動、三菱電機グループの考えや取組みをご覧いただき、どのような従業員が働いているか、どういった製品を製造しているかなどを知っていただけるかと考えております。是非とも、当社及び当社製品について知っていただき、ご理解を深め、引き続きご愛顧いただけますよう当社グループ一丸となって企業活動に努めてまいります。

部門別概況



鉄道車両用同期リラクタンスマーターシステム [SynTRACS]

「SynTRACS」は、鉄道車両の推進システムとして用いられ、回転子に永久磁石を用いない同期リラクタンスマーターと、それを制御するSiC適用インバータで構成。材料にレアアースを使用せずに、世界最高レベルの高効率化を達成。消費電力量が高効率誘導モーターシステム比18%減となる効果を確認し、鉄道車両の省エネ化に貢献。



グローバルスローガン [Automating the World]を策定

FAシステム事業のグローバルスローガンとして「Automating the World」を策定。「社会がいかに変容したとしても、お客様に真に寄り添えるパートナー」として、これまで築きあげてきたノウハウを継承しながら、デジタルなど最先端技術を活用した「オートメーション(自動化)」によって、お客様の事業はもちろん、複雑化・多様化する社会にも大きな変革をもたらします。



電力インフラ、社会インフラ、防衛・宇宙インフラの事業環境を見ると、カーボンニュートラルやエネルギー安全保障、人手不足や老朽化するインフラ対策、安全保障などの課題があると認識しています。これまで培ってきたエンジニアリング力と強いコンポーネントといったインフラBAの強みを発揮して、カーボンニュートラルと安心・安全という社会課題の解決に貢献します。

社会システム事業

円安の影響に加え、国内外の交通事業や公共事業の増加などにより、受注高・売上高ともに前年同期を上回りました。

電力システム事業

受注高は国内の発電事業や電力流通事業の増加などにより前年同期を上回り、売上高は円安の影響に加え、国内外の電力流通事業や海外の発電事業の増加などにより前年同期を上回りました。

防衛・宇宙システム事業

受注高は防衛システム事業の大口案件の増加により前年同期を上回りましたが、売上高は防衛システム事業の大口案件の減少により前年同期を下回りました。

FAシステム事業と自動車機器事業で培ったパワーエレクトロニクス技術やモーター技術等、強みである制御駆動技術を結集させた付加価値の高いコアコンポーネントにデジタル技術を掛け合わせることで、未来の「ものづくり」と「快適な移動」を支え、社会価値を創出します。

FAシステム事業

デジタル関連分野の需要の減少などにより、受注高・売上高ともに前年同期を下回りました。

自動車機器事業

モーター・インバータなどの電動化関連製品や自動車用電装品、ADAS関連機器の増加に加え、円安の影響や価格転嫁の効果などにより、受注高・売上高ともに前年同期を上回りました。

人々の生活を支える豊富な設備の提供に加えて、保守や運用管理等のサービス事業も行っています。これらの事業を通じてあらゆる生活空間における人や物の快適空間・環境を創造するソリューションプロバイダとなることを目指します。これらのライフラインとも言える設備群をつくり、みまもり、そしてさらに進化をさせていきます。

ビルシステム事業

円安の影響や、中国を除くアジア・国内・欧州の増加などにより、受注高・売上高ともに前年同期を上回りました。

空調・家電事業

円安の影響や価格転嫁の効果に加え、欧州・アジア・北米・国内向けの空調機器の増加などにより、売上高は前年同期を上回りました。

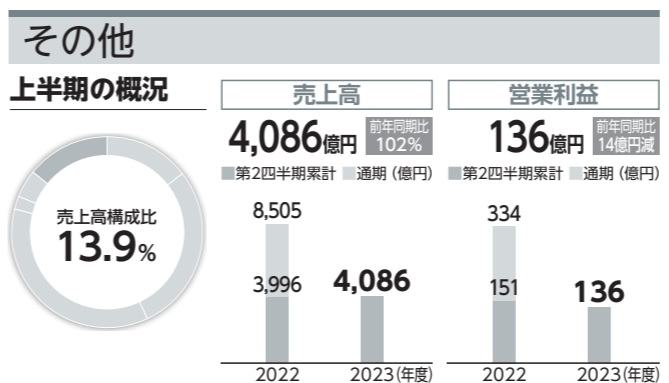
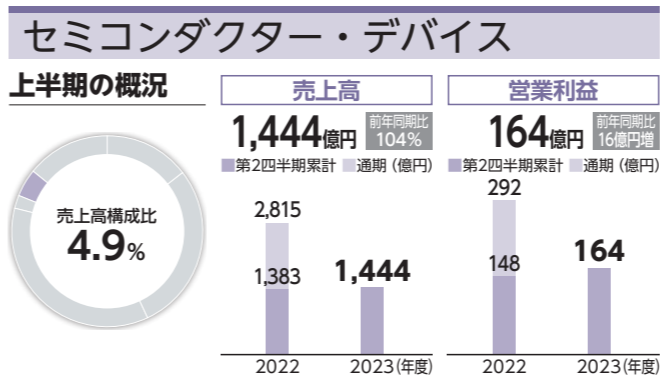
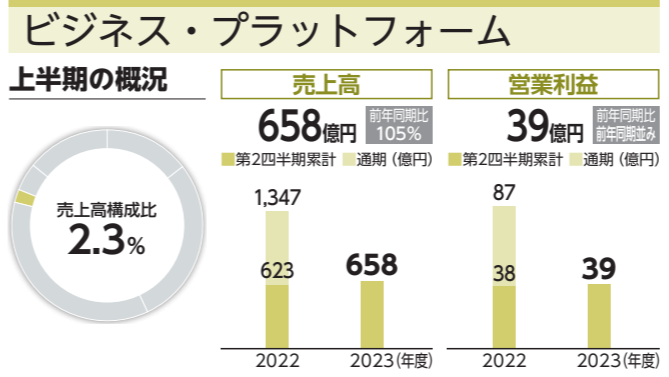
D-SMiree(スマート中低圧直流配電ネットワークシステム)

2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」を目指した取組みが加速。「中低圧直流配電ネットワークシステム：D-SMiree(ディースマイリー)」は、最先端の電力変換技術とエネルギー制御技術を組み合わせた「信頼性」「環境性」「経済性」を支援する革新的な配電システム。




電動パワーステアリング用モータコントローラユニット

電動パワーステアリングは、ドライバーの操舵力をモーターでアシストするシステムで、電動車両、自動運転車両に関わらず搭載される。自動運転車両の高い安全要求に対応する、スリムな高出力MCUを開発、量産を開始。主要機能を冗長化し、1系統が故障したとしてももう1系統の正常なシステムによって動作を継続することが可能。

スマートシティ・ビルIoTプラットフォーム [Ville-feuille]の「ロボット移動支援サービス」

省人化対応などを背景にニーズが高まるサービスロボット導入促進に向けて、設備とロボットを連携させるプラットフォーム「Ville-feuille」により、ロボットが移動しやすい環境構築を支援する「ロボット移動支援サービス」を提供。エレベーターに人とロボットが同乗できる機能の開発により、効率のよい運行が可能に。



3次元計測アプリ「Rulerless」

スマートフォンで取得した3次元点群情報と撮影画像により生成した3Dモデルに対し、指定した2点間の長さを手軽に測定可能。スマホアプリのため操作が手軽、導入も容易。また、クラウド上にデータを共有することで、現場とバックオフィスの連携を高度化。

3次元モデルを生成し、現実空間の長さを高精度に計測



(適用例) 水災の浸水高計測、建築物・土木構造物の点検等

三菱電機グループは、「循環型 デジタル・エンジニアリング企業」への変革を進めています。ビジネス・プラットフォームBAでは、この循環型 デジタル・エンジニアリングを実現する事業を効率良く創出、開発、運営することを目的に、「事業DX」と「業務DX」の両輪の取組みを通じて「循環型 デジタル・エンジニアリング経営基盤」を構築していきます。

情報システム・サービス事業

システムインテグレーション事業・ITインフラサービス事業の増加により、受注高・売上高ともに前年同期を上回りました。

半導体・デバイス事業は、社会のGX・DX実現に必要なキーデバイスの提供を通じて、三菱電機グループの統合ソリューションをコンポーネントから強化していくことに加え、半導体を使う立場であるユーザー事業の知見を幅広く取り込み、顧客目線で付加価値の高いデバイスの開発に取り組みます。

電子デバイス事業

受注高は電鉄・電力向けパワー半導体の増加などにより前年同期を上回り、売上高は円安の影響に加え、産業・電鉄・電力向けパワー半導体の増加などにより前年同期を上回りました。

その他 売上高は、資材調達・ソフトウェアの関係会社の増加などにより、前年同期を上回りました。

三菱ルームエアコン霧ヶ峰

世界初*の空調「エモコテック」搭載シリーズを拡充し、更なる快適性向上に貢献。独自学習機能により使用環境に合わせた立ち上げ運転を行う「エコスタート」で、省エネを実現。また、着霜量モニタリングを改善し、従来比約6.5倍の最大連続暖房運転時間を実現。【「FZシリーズ」「Zシリーズ」】

*空調機器において、室内にいる人の脈を非接触で計測することで、脈から人の感情を推定し、温度や気流を制御する技術(当社調べ)。2023年2月17日発売。



SiCパワー半導体の生産体制強化に向け 新工場棟を建設

パワーデバイス事業における2021年度から2025年度までの累計設備投資を従来計画から倍増させ、約2,600億円を投資。SiCパワー半導体は、低損失・高温度動作・高速スイッチング動作等が求められる様々な応用分野における更なる市場の拡大が見込まれ、GX実現への貢献に期待。SiCウエハの大口径化(8インチ)に対応した新工場棟を建設し、また、6インチウエハ製品の生産設備も増強し、更なる事業拡大を目指す。



株主メモ

株式事務のご案内

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会議決権行使 株主確定日	3月31日
定時株主総会開催時期	6月下旬
剰余金の配当支払株主 確定日	期末配当金：3月31日 中間配当金：9月30日

公告掲載ウェブサイト

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/ir/library/01.html>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株主名簿管理人・特別口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

連絡先

東京都府中市日鋼町1-1

電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)

郵送先

〒137-8081

新東京郵便局私書箱第29号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

配当金のお支払いについて

- 2023年度の中間配当金につきましては、**昨年の中間配当金と比較して6円増配の、1株当たり20円(税込み)**をお支払いすることといたします。「配当金領収証」にてお受け取りの株主さまは、2024年1月12日(金)までにゆうちょ銀行でお受け取りください。
- 配当金は、定款の規定により、支払開始の日から満3年を経過いたしますと、お支払いできなくなりますので、お早めにお受け取りください。
- 支払開始の日から満3年を経過していない未受領の配当金については、株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)にてお支払いいたします。

住所・氏名の変更、配当金の受領方法の指定・変更、単元未満株式の買取り・買増し請求等の手続きのご案内

- 原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承りますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。

ご注意▶特別口座をご利用の株主さまへ

- 特別口座に記録されている株式を株式市場で売却したり、特別口座を通じて株式市場にて株式を購入することはできません。
- 特別口座に株式をお持ちの株主さまがお取引をされる場合には、あらかじめ一般口座への振替が必要になります。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。

投資家情報サイトのご案内

最新の決算情報など、経営に関する様々な情報を随時掲載しています。「個人投資家の皆さまへ」のページでは、業績にまつわるデータや事業内容などの様々な情報を個人投資家の皆さまに向けてわかりやすくご案内していますので、ぜひご覧ください。

三菱電機 投資家情報

検索

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/ir/>



IR情報メール 配信のご案内

最新のニュースリリースやホームページの更新情報などをお届けいたします。当社投資家情報サイトからご登録いただけますので、ぜひご利用ください。

投資家情報サイト▶IR情報メール配信

三菱電機株式会社

<https://www.MitsubishiElectric.co.jp/>

